

[野菜（葉菜類）]

2.1 はくさい

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・抵抗性品種、被覆栽培、生物農薬、マルチ栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|----------|---|-------------------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病虫害等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術(B T 剤) (天敵微生物) | コナガなど ヨトウムシなど 軟腐病 | 3回 1回 1回 |
| | ○フェロモン剤利用技術 | ハスモンヨトウ、コナガ、オオタバコガ | 2回 |
| | ○被覆栽培技術(防虫網) | アオムシ ヨトウムシなど | 2回 1回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○機械除草技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○抵抗性品種栽培技術 | 根こぶ病 | 1回 |
| その他の留意事項 | | | |

2.2 キャベツ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・抵抗性品種、生物農薬、マルチ栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|----------|---|-------------------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病害虫等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵微生物) (B T 剤) | 軟腐病 コナガなど ヨトウムシなど | 1回 3回 1回 |
| | ○フェロモン剤利用技術 | ハスモンヨトリ、コナガ、オオタバコガ | 2回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○機械除草技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○対抗植物利用技術 | 根こぶ病 | 1回 |
| | ○抵抗性品種栽培技術 | 萎黄病 | 1回 |
| その他の留意事項 | | | |

2.3 ほうれんそう

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・被覆栽培、マルチ栽培、捕虫機により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|------------|---|----------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病害虫等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など | 1回 |
| | | アブラムシ類など | 1回 |
| | | オオタバコガなど | 1回 |
| | ○被覆栽培技術(雨よけ) | 苗立枯病 | 1回 |
| | ○被覆栽培技術(防虫網) | ヨトウムシなど | 1回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 |
| ○抵抗性品種栽培技術 | べと病 | 1回 | |
| その他の留意事項 | | | |

2.4 しゅんぎく

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・被覆栽培、熱消毒、捕虫機により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|--------------|---|----------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病虫害等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など | 1回 |
| | | アブラムシ類など | 1回 |
| | | オオタバコガなど | 1回 |
| | ○被覆栽培技術(雨よけ) | べと病 | 1回 |
| ○被覆栽培技術(防虫網) | ヨトウムシなど | 1回 | |
| その他の留意事項 | | | |

25 レタス

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|----------|---|-------------------------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病害虫等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など 軟腐病など オオタバコガなど | 1回 1回 1回 |
| | ○被覆栽培技術(雨よけ) | 軟腐病 | 2回 |
| | ○被覆栽培技術(防虫網) | ヨトウムシなど | 1回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○光利用技術(黄色灯) | 夜蛾類 | 2回 |
| | その他の留意事項 | | |

2.6 リーフレタス

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|-------------|---|----------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病虫害等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など | 1回 |
| | | アブラムシ類など | 1回 |
| | | オオタバコガなど | 1回 |
| | ○被覆栽培技術(雨よけ) | 軟腐病 | 2回 |
| | ○被覆栽培技術(防虫網) | ヨトウムシなど | 1回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 |
| ○光利用技術(黄色灯) | 夜蛾類 | 2回 | |
| その他の留意事項 | | | |

27 サラダ菜

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培、熱消毒により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|------------|---|----------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病害虫等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など | 1回 |
| | | アブラムシ類など | 1回 |
| | | オオタバコガなど | 1回 |
| | ○被覆栽培技術(雨よけ) | 軟腐病 | 2回 |
| | ○被覆栽培技術(防虫網) | ヨトウムシなど | 1回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 |
| ○熱利用土壌消毒技術 | 根腐病 | 1回 | |
| その他の留意事項 | | | |

28 たかな

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、マルチ栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|----------|---|--------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病虫害等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵微生物) (BT剤) | 軟腐病 コナガなど | 1回 1回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○機械除草技術 | 雑草 | 1回 |
| その他の留意事項 | | | |

29 セルリー

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・被覆栽培、マルチ栽培、熱消毒により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|------------|---|----------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病害虫等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など | 3回 |
| | | アブラムシ類など | 3回 |
| | | オオタバコガなど | 2回 |
| | ○被覆栽培技術(雨よけ) | 軟腐病 | 2回 |
| | ○被覆栽培技術(防虫網) | マメハモグリバエ | 2回 |
| | | オオタバコガなど | 1回 |
| ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 | |
| ○熱利用土壌消毒技術 | 萎黄病 | 1回 | |
| その他の留意事項 | | | |

30 カリフラワー

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|----------|---|------------------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病害虫等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵微生物) (BT剤) | 軟腐病 コナガなど ヨウムシなど | 1回 2回 1回 |
| | ○フェロモン剤利用技術 | ハスモンヨトリ、コナガ、オタバコガ | 2回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○機械除草技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○対抗植物利用技術 | 根こぶ病 | 1回 |
| その他の留意事項 | | | |

3.1 ブロッコリー

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|----------|---|------------------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病害虫等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵微生物) (BT剤) | 軟腐病 コナガなど ヨウムシなど | 1回 2回 1回 |
| | ○フェロモン剤利用技術 | ハスモンヨトリ、コナガ、オタバコガ | 2回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○機械除草技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○対抗植物利用技術 | 根こぶ病 | 1回 |
| その他の留意事項 | | | |

3.2 さら

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・被覆栽培、マルチ栽培、熱消毒、捕虫機により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|-----------------|---|-----------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病害虫等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など | 2回 |
| | | アブラムシ類など | 2回 |
| | | ヨトウムシなど | 2回 |
| | ○被覆栽培技術(防虫網) | ハモグリバエ類など | 2回 |
| | ○被覆栽培技術(雨よけ) | 白斑葉枯れ病 | 1回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○熱利用土壌消毒技術 | 乾腐病 | 1回 |
| ○光利用技術(シルバーマルチ) | アブラムシ類など | 2回 | |
| その他の留意事項 | | | |

3.3 ねぎ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培、機械除草、熱消毒、捕虫機により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|--------------------|---|----------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病害虫等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など | 2回 |
| | | アブラムシ類など | 2回 |
| | | ヨトウムシなど | 4回 |
| | ○被覆栽培技術(雨よけ) | べと病 | 2回 |
| | ○被覆栽培技術(防虫網) | ハモグリバエなど | 2回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○機械除草技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○抵抗性品種栽培技術 | 疫病など | 1回 |
| ○熱利用土壌消毒技術 | 萎凋病 | 1回 | |
| ○光利用技術(紫外線カットフィルム) | アザミウマ、ハモグリバエ | 2回 | |
| その他の留意事項 | | | |

3.4 たまねぎ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・マルチ栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|----------|---|----------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病虫害等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵微生物) (BT剤) | 軟腐病 ヨトウムシなど | 1回 1回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 2回 |
| | ○機械除草技術 | 雑草 | 2回 |
| その他の留意事項 | | | |

3.5 アスパラガス

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・被覆栽培、マルチ栽培、黄色灯により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|---------------------------------|---|----------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病害虫等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など | 2回 |
| | | アブラムシ類など | 2回 |
| | | ヨトウムシなど | 2回 |
| | ○フェロモン剤利用技術 | ハスモンヨトウ、オオタバコガ | 3回 |
| | ○被覆栽培技術(雨よけ) | 茎枯れ病 | 5回 |
| | ○被覆栽培技術(防虫網) | ヨトウムシなど | 3回 |
| ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 | |
| ○光利用技術(紫外線カットフィルム) (黄色灯) | アザミウマ | 2回 | |
| | アブラムシなど | 1回 | |
| | 夜蛾類 | 3回 | |
| その他の留意事項 | | | |

3.6 みょうが

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・被覆栽培により化学農薬の使用を低減する。

| 区 分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|----------|---|---------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病虫害等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術（BT剤） | ヨトウムシなど | 1回 |
| | ○被覆栽培技術（防虫網） | ヨトウムシなど | 1回 |
| | ○被覆栽培技術（雨よけ） | 根茎腐敗病 | 2回 |
| その他の留意事項 | | | |

3.7 チンゲンサイ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培、捕虫機により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|--------------------|---|------------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病害虫等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など | 1回 |
| | | アブラムシ類、軟腐病 | 2回 |
| | | コナガなど | 2回 |
| | | ヨトウムシなど | 1回 |
| | ○被覆栽培技術(防虫網) | コナガなど ヨトウムシなど | 2回 1回 |
| ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 | |
| ○熱利用土壌消毒技術 | 立枯病 | 1回 | |
| ○光利用技術(紫外線カットフィルム) | アブラムシ類など | 2回 | |
| その他の留意事項 | | | |

3.8 山東菜、こまつな

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培、捕虫機により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|--------------------|---|------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病害虫等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など | 1回 |
| | | アブラムシ類、軟腐病 | 2回 |
| | | コナガなど | 2回 |
| | | ヨトウムシなど | 1回 |
| ○被覆栽培技術(防虫網) | コナガなど ヨトウムシなど | 2回 1回 | |
| ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 | |
| ○光利用技術(紫外線カットフィルム) | アブラムシ類など | 2回 | |
| その他の留意事項 | | | |

3.9 ナバナ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、マルチ栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|----------|---|--------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病虫害等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術（BT剤） （天敵微生物） | コナガなど 軟腐病 | 2回 1回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 2回 |
| | ○機械除草技術 | 雑草 | 2回 |
| | ○対抗植物利用技術 | 根こぶ病 | 1回 |
| その他の留意事項 | | | |

40 しそ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、黄色灯、熱消毒により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|-------------|---|----------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病虫害等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など | 2回 |
| | | アブラムシ類など | 2回 |
| | | ヨトウムシなど | 2回 |
| | ○被覆栽培技術(防虫網) | ヨトウムシなど | 2回 |
| ○フェロモン剤利用技術 | ハスモンヨトウ | 2回 | |
| その他の留意事項 | | | |

4.1 パセリ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培、熱消毒により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|--------------------|---|----------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病害虫等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など | 2回 |
| | | アブラムシ類など | 2回 |
| | | ヨトウムシなど | 2回 |
| | ○被覆栽培技術(防虫網) | ヨトウムシなど | 2回 |
| | ○被覆栽培技術(雨よけ) | 軟腐病 | 2回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 |
| ○光利用技術(紫外線カットフィルム) | アザミウマ、アブラムシ類など | 2回 | |
| その他の留意事項 | | | |

4.2 にんにく

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培、機械除草により化学農薬を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|----------|---|--------------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふん堆肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥（側条施肥）及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病虫害等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 （天敵微生物） （BT剤） | 軟腐病 ネギコガなど | 1回 2回 |
| | ○被覆栽培技術(防虫網) | ネギコガなど | 2回 |
| | ○マルチ栽培技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○機械除草技術 | 雑草 | 1回 |
| | ○光利用技術（シルバーマルチ） | アブラムシ、ハモグリバエ など | 1回 |
| その他の留意事項 | | | |

4.3 みずな

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、捕虫機により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|--------------------|---|------------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病虫害等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (BT剤) | アブラムシ類など | 1回 |
| | | アブラムシ類、軟腐病 | 2回 |
| | | コナガなど ヨトウムシなど | 2回 1回 |
| ○被覆栽培技術(防虫網) | コナガなど ヨトウムシなど | 2回 1回 | |
| ○光利用技術(紫外線カットフィルム) | アザミウマ、ハモグリバエ、アブラムシ類など | 2回 | |
| その他の留意事項 | | | |

4.4 かつおな

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

| 区分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|----------|---|----------------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 | | 2 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 20% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病虫害等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術(BT剤) (天敵微生物) | コナガなど | 3回 |
| | | ヨトウムシなど 軟腐病 | 1回 1回 |
| ○機械除草技術 | 雑草 | 1回 | |
| その他の留意事項 | | | |

4 5 ふき

- ・地域の土壌条件に応じて、稲わら等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、局所施肥、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培により化学農薬の使用を低減する。

| 区 分 | 持続性の高い農業生産方式の内容 | | 使用の目安 |
|---------------|--|----------|----------------|
| たい肥等施用技術 | ○定植後に乾燥と地温の上昇を防ぐために施用する切りわらを全量還元する。 | | 1 t /10a |
| 化学肥料低減技術 | ○局所施肥(側条施肥)及び追肥体系とする。 ○肥効調節型肥料を基肥で施用する。 ○有機質肥料を施用する。 | | 窒素成分削減率 10% |
| 化学農薬低減技術 | 導入する個別技術 | 対象病虫害等 | 農薬散布削減回数 |
| | ○生物農薬利用技術 (天敵昆虫・ダニ類) (天敵微生物) (B T 剤) | アブラムシ類など | 1 回 |
| | | アブラムシ類など | 1 回 |
| | | 灰色かび病など | 1 回 |
| ○被覆栽培技術 (防虫網) | ヨトウムシなど | 1 回 | |
| その他の留意事項 | | | |